

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3170200772		
法人名	社会福祉法人 地域でくらす会		
事業所名	グループホーム井上さん家		
所在地	鳥取県米子市富益町4564-5		
自己評価作成日	平成24年7月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://fukushi-kouhyou.pref.tottori.jp/koukai/kig/kig_dtl_khn_320.aspx">http://fukushi-kouhyou.pref.tottori.jp/koukai/kig/kig_dtl_khn_320.aspx</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成24年7月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・「高齢者であっても障がい者であっても、地域社会の一員として暮らせるよう支援する」という法人の基本理念に基づき、コミュニケーションによる心理的援助に重点を置くことで、入居者個々との信頼関係を築きながら生活全般にわたり対人援助(身体介護、生活支援、心理的援助)を実践している。  
 ・併設デイサービスセンター利用者との日常的な交流があり、馴染みの関係のもとレクリエーションや外出など共にすることにより刺激のある生活がおくれるよう援助している。またデイサービス利用者のグループホーム入居に際しては、馴染みの環境と人間関係によりロケーションダメージを受けずに入居できる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

デイサービスセンターの併設のグループホームで職員は一人ひとりの思いを大切にしながら支援をしております。法人独自の「基本テキスト」に基づいて信頼関係、人間関係、コミュニケーションに気を配り、利用者の生活を支援をしております。避難訓練には地域の防災協力員が参加され協働体制が築かれています。居間では職員と会話を楽しまれ自宅にのような雰囲気がみられ温かい支援が行われていました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症であっても地域社会の一員として暮らせるよう、心理的援助に重点を置き、家庭的な環境もとで個々の能力とニーズに沿ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。	認知症であっても地域社会の一員として暮らせるよう事業所理念で管理者、職員は実践している。法人の基礎研修5回実施されている。職員は年1回は必ず参加が決められている。法人独自の「基本テキスト」に基づいて職員の信頼関係、人間関係、コミュニケーションに気を配りサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の社会福祉施設や地域の団地へ散歩に出かけ、日常的に交流しているほか、運営推進会議のメンバーの方から地域の行事の案内をいただいたり、地域のいきいきサロンへ参加させていただいている。	事業所すぐ近くの集会所の「いきいきサロン」に参加し地域の方と交流がある。自治会にも入会されており、総会に管理者が出席され地域とのつながりを図っておられる。散歩では近所の方から声かけもあり、野菜を貰うこともある。すぐ近くのもみの木園の運動会、校区民運動会に出席される。ホームの夕涼み会には職員、家族の子供さんと楽しく触れ合われる。踊りのボランティアも来られ交流が継続されると良い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的な交流やいきいきサロンへの参加を通じて、地域の方々に入居者とかかわって頂くことにより、認知症が特別なものではなく地域社会の一員としてともに生活している仲間であることを理解して頂けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、アルバムをもとに活動状況を報告し、メンバーからの意見や感想を活かしてサービス向上にむけて取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。出席者は家族、自治会、包括支援センターなどほぼ固定している。事業方針、アルバム参照しながら、活動報告が行われている。元自治会長より避難訓練後の意見を今後の取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡や問い合わせを行い連携を図っている。	市担当者、包括支援センターと連絡や問い合わせを行い連携を図っている。市からのアンケート調査にも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを策定し職員に周知するとともに、できるだけ行動を制限しないよう心がけ身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除マニュアルを基に職員に周知をしている。利用者の行動をさりげなく見守り行動の制限がないよう身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修などにより、高齢者虐待の内容を周知し、特に心理的虐待について、職員の言葉が無意識のうちに本人のプライバシーを傷つけてしまう危険性があることに注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修において権利擁護に関する制度について学び、必要な方について支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る過程において、本人・家族の思いを聴き取り、安心して入居して頂けるよう訪問や面談を行っている。退去に際しても必要な援助が提供できるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者個々の意見や要望を汲み取るように努め、ご家族の意見、要望については面会の際に伺うなどして運営に反映できるよう取り組んでいる。	意見箱はあるが利用は殆ど無い。家族の意見、要望は面会時に伺っている。利用者の要望は都度聞きながら支援に反映している。新職員の紹介は便りで知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務や職員会議・カンファレンスにおいて職員個々の意見や提案を募り、運営に反映できるよう取り組んでいる。	職員会議、カンファレンスは月1回開催し意見や提案から委員会で取り組んでいる。各部署会議も月1回開催されている。法人での管理者会においても意見要望など発言する機会も有る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として就業環境の整備に取り組んでいるところであり、法人と連携して事業所の環境整備に取り組むとともに職員各自が役割を持ち意欲的に働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で全職員対象の研修が定期的に行われており、外部の研修に参加する機会をもうけるなど職員個々のスキルアップにむけて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入しており、GH協会主催の相互研修に参加することにより同業者との交流や情報交換に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面会する機会を設け、思いや希望について聴き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を重ねることにより、家族の希望や思いを聴き取り、入居にむけた不安を軽減できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時の聴き取りにより、本人・家族等が置かれている現状を把握し必要なサービスについての情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と生活を共にしているという意識を持ち、家事や日中活動を共にすることによりお互いの信頼関係を深めていけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出などで家族が本人と過ごせる時間を持って頂けるよう配慮している。近況などについて情報を共有することにより本人を共に支える関係づくりに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会や外出して頂けるよう配慮している。ご家族と協力しながら、ご自宅や馴染みの場所へ行くことができるよう取り組んでいる。	家族の面会が多く関係が途切れない支援や職員同行で自宅や馴染みの場所に行かれています。近くの福祉施設に訪問し馴染みの関係ができています。地域の散髪屋さんに出かけ関係作りを大切にされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の人間関係の把握に努め、職員の支援によりお互いにかかわりを持ちながら生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じて継続的に支援できるよう取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションを通じて本人の意向や希望等を汲み取り、把握できるよう取り組んでいる。表出の困難な方については自分が本人の立場ならという視点に立ち、希望を汲み取る努力をしている。	コミュニケーションを通じて利用者の意向、希望等くみ取り把握している。困難な方には行動や表情から汲み取られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて本人や家族に聴き取りを行い、経過の把握努めている。面会の際に家族から情報を収集し、サービス提供に役だてるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況について観察し、記録等にて情報を共有することにより個々の現状把握に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当とサービス計画担当者が本人、家族等の希望や意向を聴き取り、生活の課題を検討することにより入居者個々の現状に即した介護計画を作成できるよう取り組んでいる。	本人、家族、担当職員、計画作成者と意向や要望等話し合い介護計画が作成されている。計画書は4ヶ月で更新される。モニタリング1~4ヶ月実施。評価は4ヶ月に1回実施。生活や状態変化があるときはカンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。介護計画の記録は日誌、チェック表、実施記録に記載されている。	介護計画の記録は日誌、チェック表、実施記録に記載されているがニーズに沿った記録となるよう検討されると良いかもしれません。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には入居者個々の生活の様子を記録している。特に心身における特記事項に重点を置き、申し送りや連絡ノート等で職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が困難な時の外出支援や受診同行など、事業所のできる範囲で対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様や民生委員さんの協力により、地域の行事やいきいきサロンに参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、かかりつけ医と状況に応じて連絡を取りあい、必要時には受診できるよう支援している。	入所前のかかりつけ医から協力医に変更される方が多い。2週間に1回往診で、状態にあった医療の支援が行われている。体調変化があった時は協力医に職員が同行通院して適切な医療を受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が入居者個々の情報を交換・共有し、入居者の健康管理や体調不良時の対応などに連携しながら取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中に家族や病院関係者と早期退院に向けて情報交換や話し合いの場が持てるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について、本人・家族の意向を確認したうえで事業所として対応できる範囲について協議し、本人の状況の変化に応じて家族、かかりつけ医とその都度話し合いを持ちながら対応するよう取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針は重要事項説明書で説明をしている。経管栄養、吸引、バルン対応の方は入所が出来ない説明も行っている。急変時救急対応の確認も行われている。現在は看取りの方はおられない。	職員には法人の方針について重度化や終末期のケアや勉強会、研修を行ない対応ができるようにされたい。職員の精神的なケアも考えられると良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に対するマニュアルを周知しているほか、消防の救急講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの確認や定期的な避難訓練により、災害に備えている。地域の方に防災協力員をお願いし、災害時には連携して対応する体制をつくっている。	避難訓練は年2回実施される。地域の防災協力員も参加して行われる。災害時には連携して対応する体制がある。消防署がホームの近くにあり安心である。救急蘇生法などの講習は法人が消防署と連携して行い職員は参加をしている。備蓄は水、食料、おやつなど用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の状況に配慮した言葉かけや対応をしている。ここのプライバシーを尊重しつつも、入居者同士がお互いの状況を理解できるよう支援している。	マニュアルがあり職員同士で情報交換をしながら利用者の人格を尊重しプライバシーの保護に努めている。言葉の抑制にならないよう職員は意識を持ってケアをしていると管理者は話された。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況に応じて、希望の表出や自己決定できるよう言葉かけや選択肢を工夫し、本人の意向を汲み取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特定の日課を設けず、個々のペースや希望を尊重しようとしているが、意思表示の困難な方は1日の流れがパターン化しがちであったり、職員側が求める本人にとって望ましいペースを押しつけてしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを加味した衣類の選択を行っているが、職員が準備した服を着て頂いていることが多い。可能な方には美容院・理髪店に出かけてもらい、おしゃれが意識できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせて食事の形態や食器などを工夫し、必要最低限の介助にて本人ペースで食事できるよう取り組んでいる。台拭きや片づけを手伝っていただいたり、できる方には皮むきなどもお願いしている。	デイサービスと併用のため調理員がおられるが、職員と共に下ごしらえ、食後の食器を重ね下膳しやすくされるなどできることをされている。食事の意識付けのため箸を使用されている。茶碗など持ちやすいよう軽い食器を使用されている。姿勢よく食べられるよう座椅子を使い畳に座って食事されている。職員と一緒に会話を楽しみながら食べておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や血糖値などをもとに個々の状態に応じた配慮を行っている。水分摂取量に気を配り、少ない時には声かけ等により、こまめに水分摂取を促すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、個々の状況に応じてブラシを変えるなどして口腔内の清潔保持に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるようチェック表を活用し、声かけや誘導によりできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し声かけをしてトイレで排泄できる支援を行っている。トイレ誘導によりパッドの枚数を減らす取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況についてチェック表で確認し、水分摂取や乳製品を取り入れている。適度な運動を促し、トイレにしっかりと座る働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	デイサービスとの兼ね合いもあり、入浴の間隔や時間帯は残念ながら職員の都合に合わせて頂いている。できるだけ本人のペースで入浴して頂けるよう配慮している。	2日に1回入浴を行っている。広い浴室の方で、ゆったり入ってもらっている。希望で毎日入浴される方もおられる。午前中の入浴だが午後の対応も行われる。拒否の方は声かけなどタイミングを計り入浴される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて居室やデイルームにて休息したり、夜間安眠できるように日中活動を促すなど支援している。夜間の睡眠状況を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにより個々の薬について確認し、薬の変更や症状の変化について連絡ノートなどにより情報を共有している。個々の服用されている日常的な薬については定期的に内容等を確認する必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や状況に応じた役割を提供したり、レクリエーションや外出などにより楽しみが感じられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の意向を汲み取り、散歩や外出などが日常的に行えるよう取り組んでいる。地域の行事や行楽地などへ出かけることができるよう支援している。	散歩の途中にホームのすぐ近くにある福祉法人の施設に寄りお茶や会話をするなど交流がある。航空祭や江島のぼたん園にでかけられ楽しまれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況からみて金銭管理は困難であり、家族の希望もあり事業所で預らせて頂き、買い物や外出の際に使うことができるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応しているが、家族が希望されない場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の花や飾り物を施し、居間には入居者によるぬり絵などの作品を掲示して、親しみを持って過ごせるよう配慮を行っている。	居間の西側の窓ぎわは日差しが強い為すだれを使用されていた。トイレは利用者が使いやすい手すり取り付けられていた。中庭はあさがおが弦を伸ばし季節を感じさせていた。きゅうりも実り旬の食材となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のニーズにより自由な場所で過ごせるよう配慮し、少人数で過ごせるよう3人がけのソファを居間と廊下に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前から使っておられたものを持参して頂き、本人・家族と相談しながら必要なものを整え、居心地の良い居室づくりを心掛けている。	自宅で使っていたテレビ、筆筒、写真などがもちこまれ居心地よく過ごせるよう部屋づくりがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの表示を大きく分かりやすく掲示している。衣類などには分かりやすい場所に記名し、本人が自分の衣類を認識できるよう配慮している。		